

In the beginning was the **Word**, and the **Word** was with **God**, and the **Word** was **God**. John, 1:1



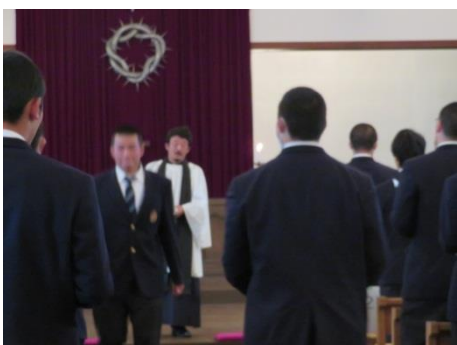
本校の母教会である日本聖公会 神戸聖ミカエル教会にて、高校のクリスマス礼拝が持たれました。キリスト教主義の本校において、救い主の誕生をお祝いする、重要な礼拝です。礼拝に先立ち、献金が集められました。「いつも自分のために使っているお金。今日買おうと思っていたジュース代だけでも、1年に1回はだれかのために使ってみませんか？」という呼びかけのもと、多くの生徒と教員が一致協力。感謝。

朝から、1・2年生一緒の文理特進コース・アスリートコースの部、進学キャリアコースの1年生の部と2年生の部、3年生の前半クラスの部と後半クラスの部という、5回の礼拝が持たれました。司式者とオルガン奏者はこのすべての礼拝で奉仕。お疲れ様でした！ 看板は本校書道教諭の書。

1・2年生一緒の文理特進コース・アスリートコースの部：ホシキ100%の少年たち

「昨日までは期末試験、勉強を思い切りがんばりました、現時点ですでに将来は大学希望です！」「トップ・アスリートを目指し、日々全国レベルの実力を養っています！」という、志の高い生徒たち。一挙手一投足に緊張感がみなぎっていました。本校の学院長でもある八代智チャプレンから、ことば=ロゴスとして受肉されたイエスのお話が、クリスマス・メッセージとして語られました。

ちなみに、NHK連続テレビ小説「べっぴんさん」で聞かれる鐘の音は、当教会で収録されたとのこと。



進学キャリアコースの1年生の部と2年生の部：**パワフル牧師のいい話**

「神戸国際大学を含めた7年間で、ゆるやかに学習しよう。高校時代にしかできないことを楽しむぞ!」「いやいや、ぼくは就職して立派な社会人になるんだ!」「ぼくは、どうしようかな。科学には興味あるが…」それぞれの思いを抱いた生徒たちが自分探しをする中、イエス・キリストと出会う体験をしました。

日本同盟基督教団 播磨キリスト教会の牧師、山本和義先生がクリスマスの意味を分かりやすくメッセージされました。神的なもの、聖なるものは俗世間から遠く離れたイメージがあるけれど、実は神様は人としてこの世界に住まわれたのです。全能の神であることを捨てて、痛みを覚える有限な肉体として生きられたからこそ、生きるつらさがお分かりになる。それが聖書の神様です。山本師は、筆者の所属する教会の牧師。ザ・福音を語る率直さと**ことば**の力強さはいつも通り、2回のメッセージありがとうございました!



3年生の前半クラスの部と後半クラスの部：**若きメッセンジャー 涙の再会**

卒業を控えた3年生にとっては、制服に身を包むのもあと数回のカウントダウン。高校生活最後のクリスマス・メッセンジャーは、日本キリスト教団 はりま平安教会の牧師、松本あずさ先生。クリスマスの聖書記事を、松本先生らしく現代風に置き換えた、分かりやすいお話でした。

その丁寧な**ことば**の端々に、生徒たちへの深い愛情が感じられました。それもそのはず、松本先生は一昨年まで本校の聖書科非常勤講師として在職、この3年生が1年生のときに聖書の授業を担当されていました。2年ぶりに再会した生徒たちの成長した姿を前に、メッセージ最後のお祈りで、本当に自然体で、ざっくばらんに神様と対話。3年生をここまで守り導いてくださった神様に感謝の言葉を述べる際には、涙を流されました。司式者のチャプレンが最後に祝福の祈りをするはずのところ、後半クラスの最後の最後だけは、チャプレンが松本先生にそっと耳打ち、「してあげて。」

3年生諸君、こんなに愛されることはめったにないぞ。コクサイに来て、本当によかった!



Sei nun wieder zufrieden, meine Seele, denn der Herr tut dir Guts. (BWV21, Johann Sebastian Bach)
再び安心するがよい、わが魂よ。主があなたに良いことをしてくださるのだから。(筆者訳)